

あいちデジタルアイランドプロジェクト

デジタルアイランド共創コンパス 概要版

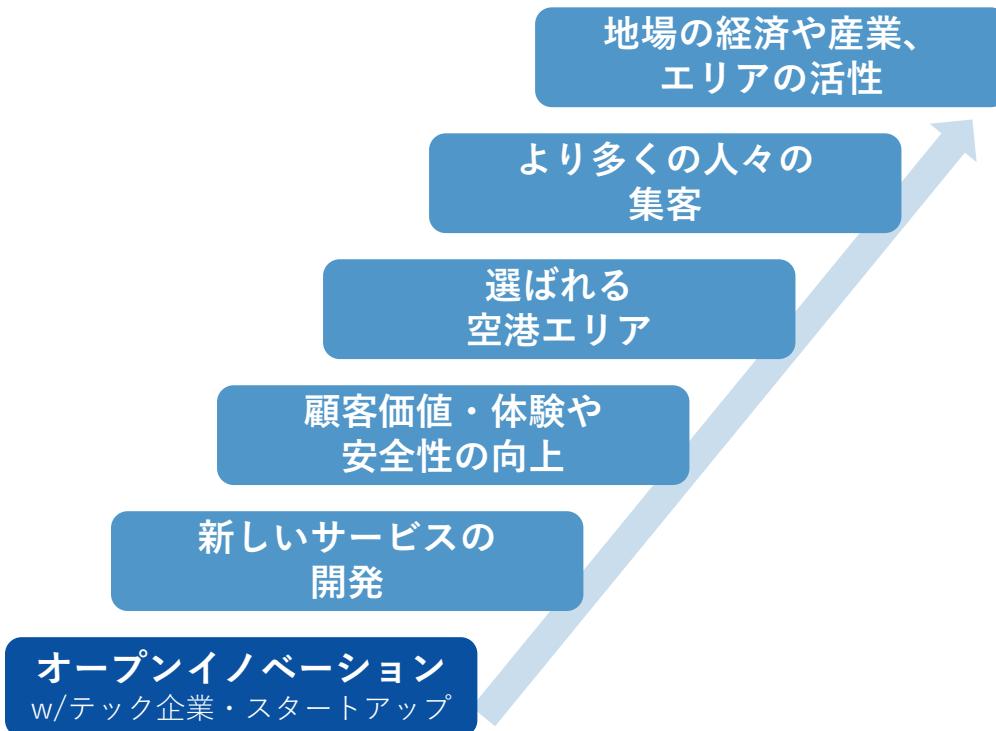
2025年3月26日



経済産業局産業部産業振興課

- 変化のスピードが速く、将来予測が困難なVUCA時代では、変化への対応力が必要となる。この時、自社にない知識や技術の獲得、自社のみでは生み出せない競争力を持つ事業の開発など、他社と共創して取り組む**オープンイノベーションのアプローチが必要**となっている。
- 他の空港エリアはオープンイノベーションを起点にサービス開発に取り組むことで、魅力を高め、一層の集客、地場経済や産業の活性を図るエリア成長モデルを構築し始めている。中部国際空港島及び周辺地域でも、**オープンイノベーションを通した地域産業・エリアの新たな成長モデルが必要**になっている。

国内外空港周辺エリアの成長モデル



オープンイノベーション例

羽田空港周辺エリア

イノベーションの発信地とすることを志向し、空港島内に「HANEDA INNOVATION CITY」を開設。テック企業とともに、自動運転バス、サービスロボット、警備システム、感染症対策システム、無人店舗、アグリ・スマートティに関する実証を実施。

ミュンヘン空港

空港内に業界横断型のイノベーションセンター「Lab Campus」を建設。世界各所のイノベーション志向企業、先端サービス開発企業を誘引し、世界的なビジネスと研究開発の拠点、新サービスを生み出す拠点となることを目指す。

オープンイノベーションフィールドとしての魅力がある中部国際空港島及び周辺地域

- 中部国際空港島及び周辺地域には、空港関連業、運輸業、商業、宿泊・観光業、製造業をはじめ、様々な産業が集積しているほか、他の空港と比べてもエリア全体として大規模なフィールドを有する。フィールドには、先進的な通信技術など、デジタル技術の可能性を検証できる環境も整う。
- さらに、中部国際空港をハブとして様々な人が集まる環境があるほか、今後ビッグイベントの開催を控えており、**オープンイノベーションを行う上で最適な環境が整っている。**

オープンイノベーションフィールドとしての中部国際空港周辺エリアの特徴や魅力

中部国際空港周辺エリアには オープンイノベーションに最適なフィールドがある

①様々な産業の集積地



- 空港関連業、運輸業、国際展示場や商業、宿泊・観光施設が数多く存在
- 対岸エリアを含め、常滑焼などの伝統工芸等の**製造業**が集積
- 事業やエリアの課題は様々。共創や技術活用ニーズは高い

②実験に適した地理・環境条件



- 道幅や歩道幅が広く、起伏が少なく、屋内だけでなく**大規模な屋外実証**も可能
- 5G通信環境等の**先進的な実験設備**
- 空路に加え、陸路でも優れたアクセス

③多様な人が集まる場



- 国内外から観光客やビジネスパーソンなど、多様な属性が集まる
- エリア内の居住人口は比較的少数。実証スペースを確保容易
- **STATION Ai等で共創した後、実証**も可

④将来に向けたポテンシャル

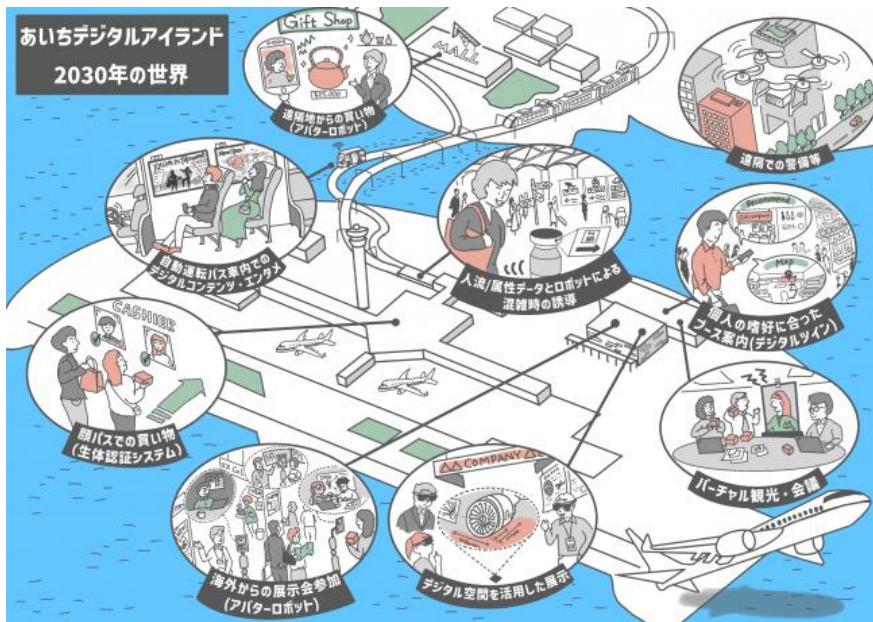


- 2026年に**アジア・アジアパラ競技大会**が予定され、海外からの来訪者の増加が期待
- 中部国際空港では、第二滑走路整備に向けた取組が進んでおり、発着便数や利用者の増加が期待

あいちデジタルアイランド | 概要

- 愛知県では、中部国際空港島及び周辺地域の強みを武器に、同フィールドを、オープンイノベーションに最適な「あいちデジタルアイランド」としてプランディング。
- あいちデジタルアイランドプロジェクトでは、2030年に普及が見込まれる近未来の事業やサービスを先行的に実用化することを目指し、**オープンイノベーションを通じた実証実験や伴走支援、エリア内企業とテック企業・スタートアップのマッチング等の支援が受けられる。**

あいちデジタルアイランドプロジェクト・イメージ



※イメージ図であり、プロジェクトで取り扱う技術やサービスは上図に限定するものではない

実証実験例



AI移動ロボット



アバター



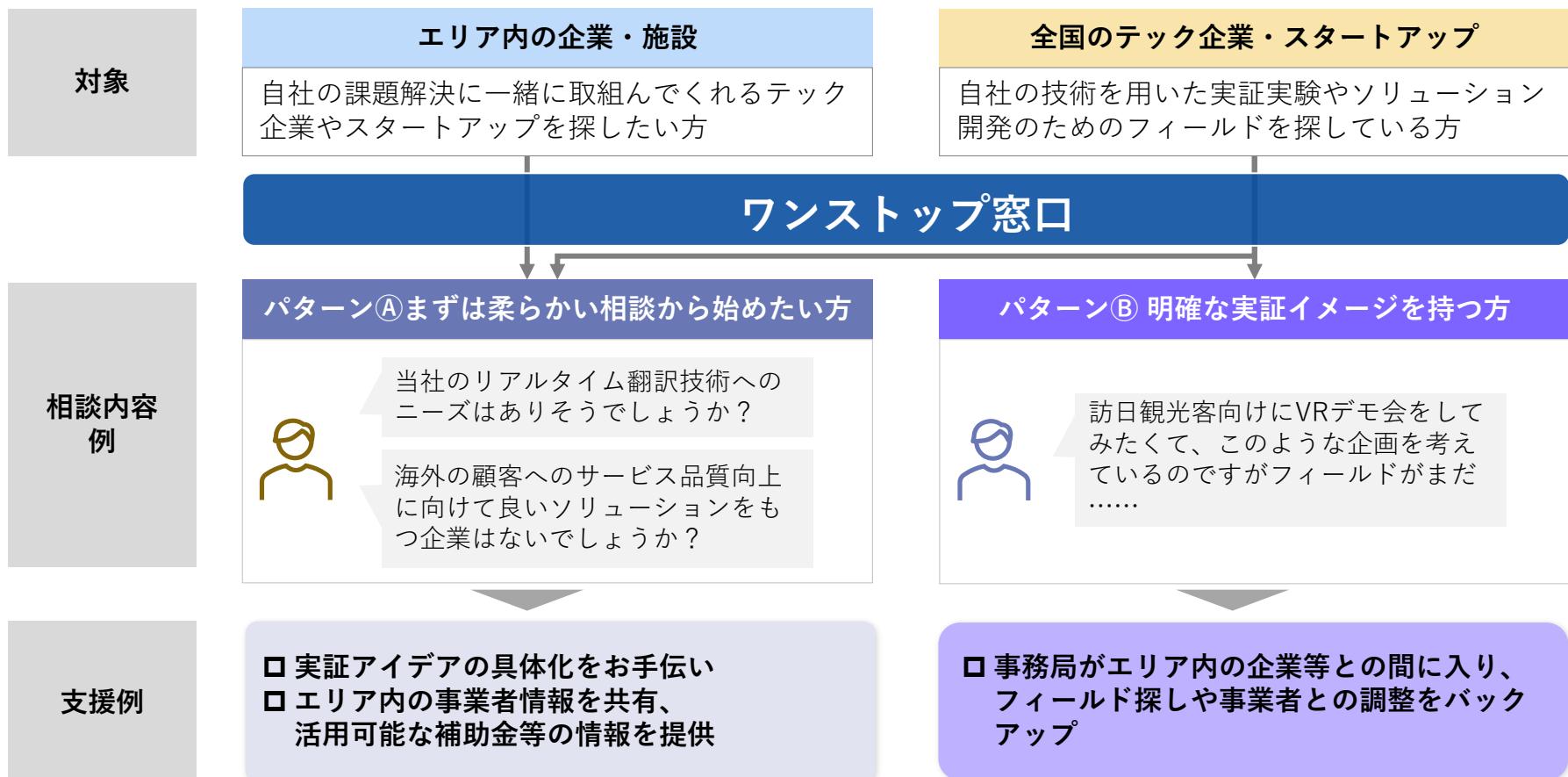
デジタルコンテンツバス



生体認証システム

- マッチングを望むエリア内企業・施設や、全国のテック企業・スタートアップの相談を受け付ける「ワンストップ窓口」では、**実証イメージが柔らかい話から明確な話まで、幅広い相談を行える。**
- 相談の後、パターンⒶでは**実証アイデア具体化や情報提供**、パターンⒷではマッチング候補先との間に事務局が入り**マッチング候補先のニーズ確認や実証実験に向けた関係者調整等の支援が受けられる。**

ワンストップ窓口概要



- TECH MEETSでは、お困りごとと、お困りごとの解決に寄与するデジタル技術とのマッチングを通して、**社会実装を見据えた新規性の高い実証実験を行っている。**

TECH MEETSのプロジェクト例

マッチング

ANA中部空港

拡大する航空需要に対応するため、人手不足が続くグランドハンドリング業務の**省人化・省力化の仕組みを構築したい**



AltoAir

エッジAIを用いた画像解析技術を提供

Aichi Sky Expo

「**選ばれるイベント会場**」を目指し、大量の来館者情報を把握し、効率的な施設運営を行うデータ蓄積・活用の仕組みを構築したい



センサーズ・アンド・ワークス

人流データサービスを提供

名鉄生活創研

外国人観光客向けの言語対応や店舗運営の効率化を通じ、**店舗の負担軽減、お客様の属性問わず満足して頂ける買い物体験を実現したい**



koeeru

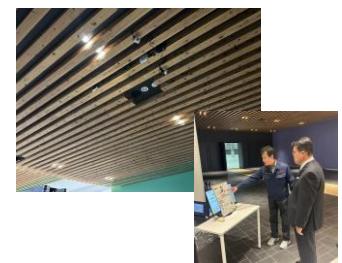
顧客の声（VOC）を起点とする**カスタマーデータプラットフォームソリューションを提供**

共創（実証実験等）

人手を要している手荷物管理業務の効率化に向け、**AIカメラ**を活用し、手荷物のタグ情報及び容積をデータ化。AIによる**手荷物位置の可視化及び積載効率の向上**に寄与するか、**全国初となる実証実験を実施。**



テック企業が持つ多様なセンサ技術のうち、**人流デジタル化ソリューション**を通じて、「3方よし」となる**展示場の提供する価値向上**を実現できるか、**新規性のある実証実験を実施。**



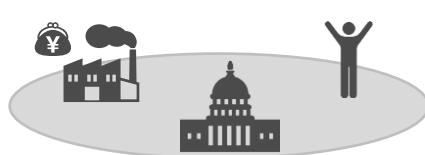
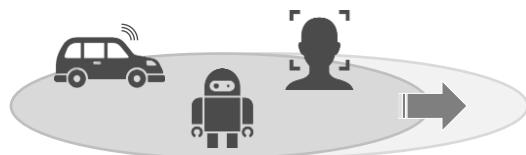
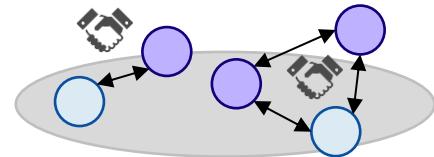
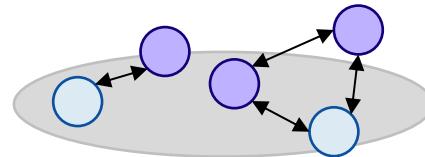
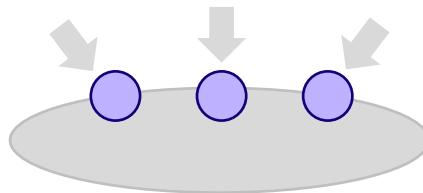
空港コンビニを起点とした訪日外国人の**VOC分析**等を通して、インバウンド客のニーズを可視化し、**体験価値向上や売上増加**につながるか検証するという**新規性のある実証実験を実施。**



- 引き続き、中部国際空港周辺エリアならではの強みを活かし、オープンイノベーションによる技術実証等を通じた新しいサービスづくりを加速することで、**企業やエリアの課題を解決し、産業振興やQoL向上に寄与していく未来を目指している。**

あいちデジタルアイランドプロジェクトが目指す姿

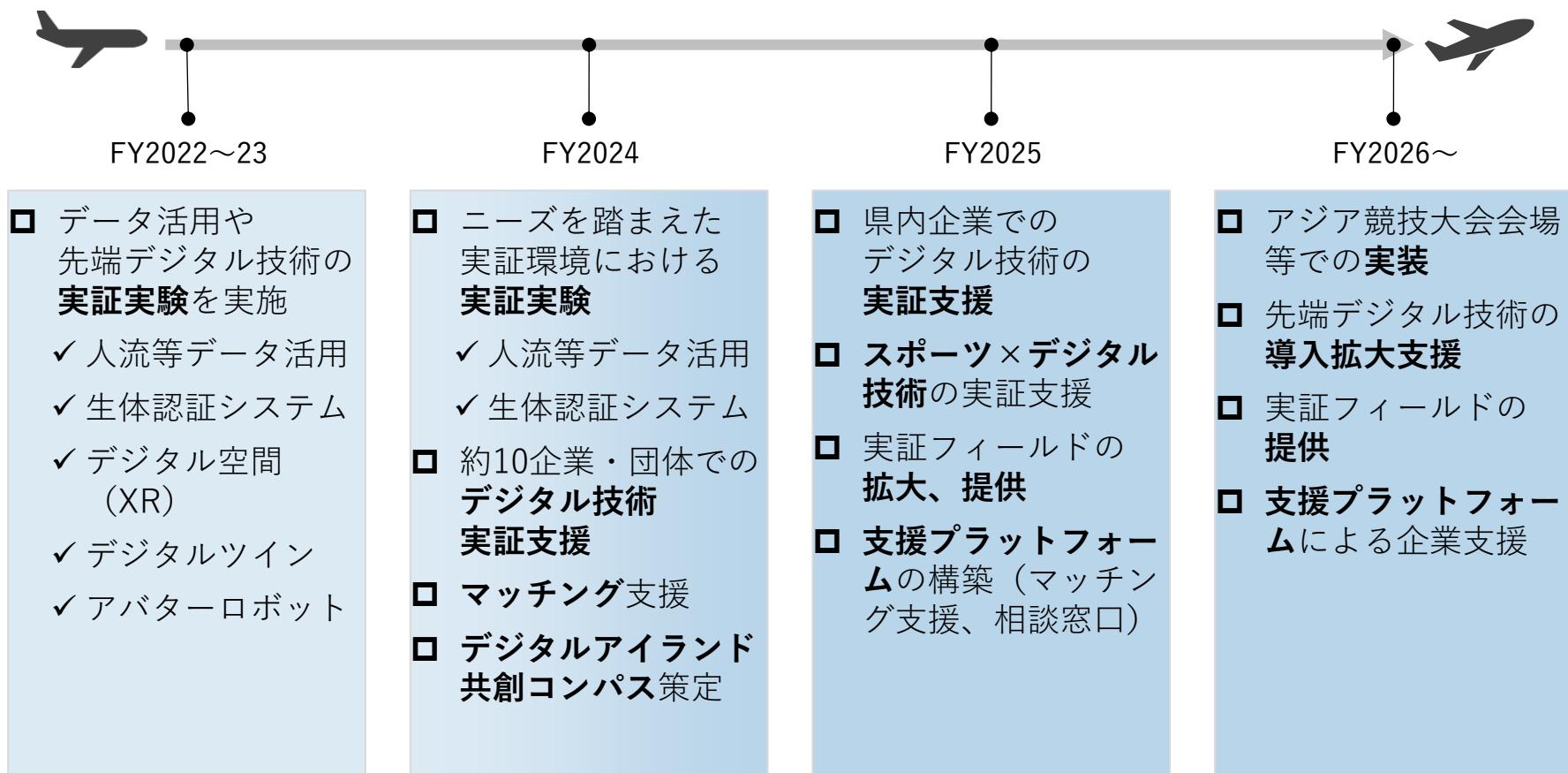
※上段：あいちデジタルアイランドプロジェクトの支援内容



※下段：あいちデジタルアイランドプロジェクトを通じて目指す姿

- 愛知県では引き続きあいちデジタルアイランドプロジェクトを通し、**オープンイノベーションを推進**し、**エリアの未来づくりを支援**する。**新しい未来を、皆様とともに作り上げていきたい。**

これまでと今後の取組



あいちデジタルアイランドプロジェクト

デジタルアイランド共創コンパス

2025年3月26日



経済産業局産業部産業振興課

概要

- 愛知県では、オープンイノベーションを通した実証実験を行うことができるフィールドとして、中部国際空港島及び周辺地域を「あいちデジタルアイランド」とプランディングしています。
あいちデジタルアイランドプロジェクトでは、**デジタル技術を使用した実証実験**のほか、エリア内企業と全国のテック企業等のマッチングなど、**実証実験に至るまでの全般的な支援**等を行っています。
- 本書「デジタルアイランド共創コンパス」では、オープンイノベーションが求められている背景、オープンイノベーションの場としてのあいちデジタルアイランドの特徴、あいちデジタルアイランドプロジェクトの支援内容、今後の取組や目指していく未来像を整理しています。
- 愛知県ではあいちデジタルアイランドプロジェクトによって、オープンイノベーションを通じた新しい**エリアの未来づくりを支援**しております。**新しい未来を、皆様とともに作り上げていきたい**、ご関心がありましたら、ぜひお問合せください。

本書の想定読者や伝えたいこと、特に閲覧してほしいChapter

読者	伝えたいこと	閲覧してほしいChapter
エリア内の企業	<input type="checkbox"/> オープンイノベーションの必要性 <input type="checkbox"/> あいちデジタルアイランドプロジェクトの理解、支援内容 <input type="checkbox"/> 目指していきたい未来像	<input type="checkbox"/> Chapter 1 <input type="checkbox"/> Chapter 3 <input type="checkbox"/> Chapter 4
全国の テック企業・ スタートアップ	<input type="checkbox"/> あいちデジタルアイランドの特徴や魅力 <input type="checkbox"/> あいちデジタルアイランドプロジェクトの理解、支援内容 <input type="checkbox"/> 目指していきたい未来像	<input type="checkbox"/> Chapter 2 <input type="checkbox"/> Chapter 3 <input type="checkbox"/> Chapter 4

Chapter 1

なぜ今、オープンイノベーションが 求められているのか ～Why～

主な読者

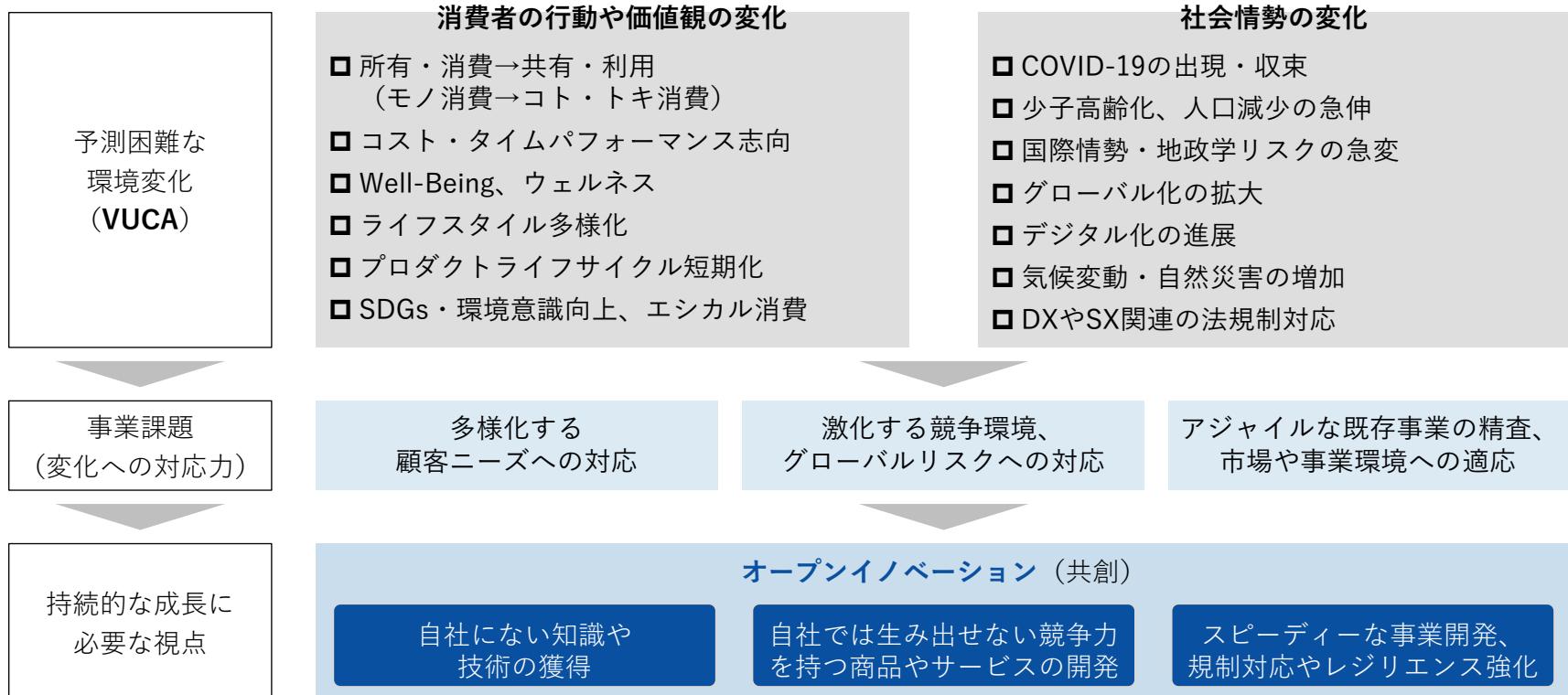
- エリア内の企業

Topic

- VUCA時代におけるオープンイノベーションの必要性
- 空港地域における新たな成長モデルづくりの必要性

- 消費者や社会の変化のスピードが速く、将来予測が困難な**VUCA時代**に突入している。
 - 地域や企業が持続的に成長していくためには、変化に合わせて素早く製品やサービスの開発と改善に繋げる等、**変化への対応力が必要**となる。この時、自社にない知識や技術の獲得、自社のみでは生み出せない競争力を持つ事業の開発など、他社と共に創して取り組む**オープンイノベーションのアプローチが必要**となっている。

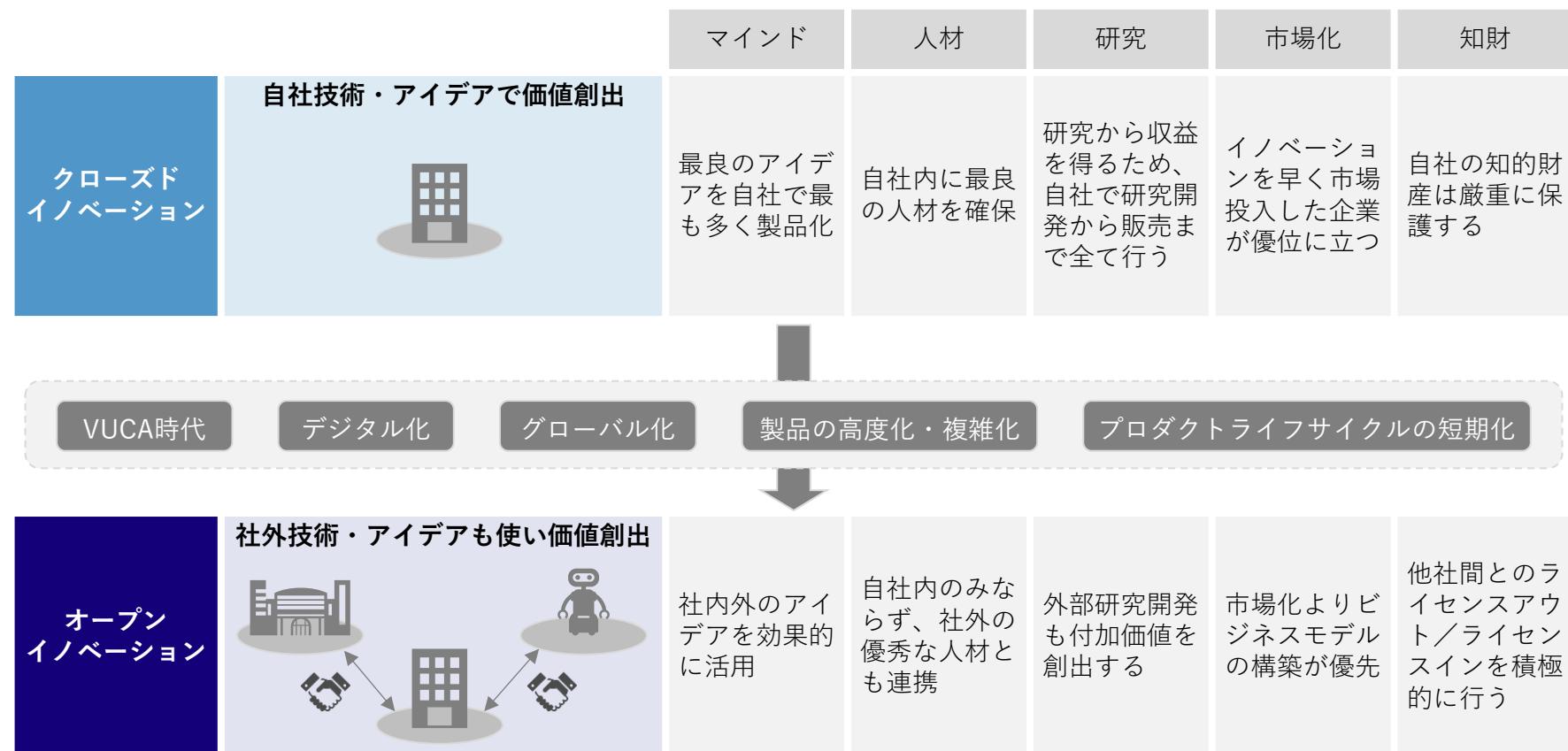
目まぐるしく環境が変化し将来予測が困難なVUCA時代に、必要となる変化への対応力とオープンイノベーションの関係



(参考) オープンイノベーションに向けて旧来の考え方を転換する必要性

- 他社と共に創しながら価値創出を図るオープンイノベーションを行うためには、自社内で全てを完結するという旧来型のクローズドイノベーションの発想から転換する必要がある。

クローズドイノベーションとオープンイノベーションの比較



(出所) NEDO「オープンイノベーション白書（第二版）」等をもとに作成

- VUCA時代における消費者の行動や価値観の変化、社会情勢の変化の中で、**空港エリアのあり方も大きく変容**している。
- 国内外の様々な空港エリアは、**変化に対応するために、他社とともにオープンイノベーションを進めている。**

空港エリアにおけるオープンイノベーション事例（次頁以降に詳述）

地域	エリア・団体名	取組概要
国内	羽田空港周辺エリア	<ul style="list-style-type: none"> □ 世界をリードする産業拠点、文化の発信拠点として、多種多様な価値観を持った人々が集い、イノベーションの発信地とすることを志向し、空港島内に「HANEDA INNOVATION CITY」を開設 □ テック企業とともに、自動運転バス、サービスロボット、警備システム、感染症対策システム、無人店舗、アグリ・スマートシティに関連する実証を実施
	成田国際空港	<ul style="list-style-type: none"> □ 空港の機能強化に向け、業務プロセスの見直しやロボット技術の積極導入、データ活用による空港運用の高度化を志向 □ テック企業とともに、空港業務に、自動運転モビリティ、AIチャットボットサービス、警備ロボット、顔認証システムの導入に向けた実証を実施
	南紀白浜空港	<ul style="list-style-type: none"> □ 南紀白浜にテレワーク拠点を有する都内大手IT企業等と連携し、最新のテクノロジーを活用した地方創生を志向 □ AI保安検査、滑走路点検自動化、顔認証システム、障害物検知の実証を実施
国際	A4I (Airport for Innovation)	<ul style="list-style-type: none"> □ デジタル技術を活用し、空港利用者に持続的かつ革新的な顧客体験の提供を目指す空港事業者同士のコンソーシアム □ デジタル技術を有するスタートアップとともに、A4Iメンバーの空港で実証実験を行い、新たな空港サービスの開発を進める
	ミュンヘン空港	<ul style="list-style-type: none"> □ 空港内に業界横断型のイノベーションセンター「Lab Campus」を建設 □ 世界各所のイノベーション志向企業、先端サービス開発企業を誘引し、世界的なビジネスと研究開発の拠点、新サービスを生み出す拠点となることを目指す

- 国内の空港においても、スタートアップや大手テック企業と連携しながらオープンイノベーションを実施し、空港内や空港エリアをフィールドとした顧客体験や安全性を高める技術を実証実験している。

他エリアの取組状況

羽田空港周辺エリア

- 2023年、空港島内に「HANEDA INNOVATION CITY」を開設。世界をリードする産業拠点、文化の発信拠点として、多種多様な価値観を持った人々が集い、イノベーションの発信地とすることを志向。
- 自動運転バス、サービスロボット、警備システム、感染症対策システム、無人店舗、アグリ・スマートシティに関連する実証を実施。



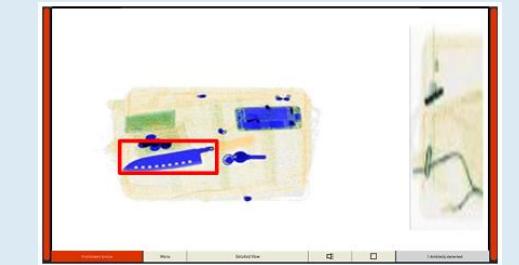
成田国際空港

- 空港の機能強化に向けたDX基本方針「AIR NARITA」を策定し、業務プロセスの見直しやロボット技術の積極導入、データ活用による空港運用の高度化を志向。
- 空港業務に、自動運転モビリティ、AIチャットボットサービス、警備ロボット、顔認証システムの導入に向けた実証を実施。



南紀白浜空港、周辺エリア

- 2018年に民営化し、経営の立て直しを実施。
- 先端技術を活用した実証に積極的に取り組むほか、南紀白浜にテレワーク拠点を有する都内大手IT企業等と連携し、最新のテクノロジーを活用した地方創生を志向。
- AI保安検査、滑走路点検自動化、顔認証システム、障害物検知の実証を実施。



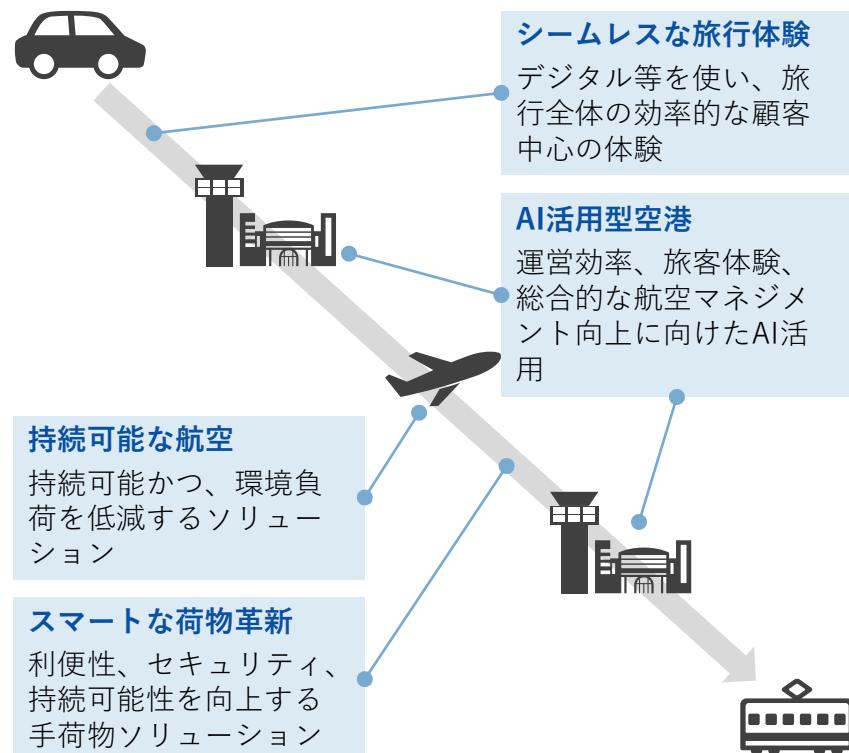
(出所) 大田区HP、千葉県HP、国土交通省資料をもとに作成

- 空港業務のイノベーションに向け、デジタル技術を活用し、空港利用者に持続的かつ革新的な顧客体験の提供を目指す空港事業者同士が連携し、A4I（Airport for Innovation）というコンソーシアムを立ち上げ。
- A4Iではオープンイノベーションプログラムを通じ、デジタル技術を有するスタートアップとともに、A4Iメンバーの空港で実証実験を行い、新たな空港サービスの開発を進めている。

A4I概要

背景	<ul style="list-style-type: none"> □ COVID-19における乗客の行動や期待の変化 □ シームレスな技術ソリューションの台頭、DXの進展 □ 持続可能性への注目
設立	<ul style="list-style-type: none"> □ 2021年、設立 2024年現在、10空港事業者が加盟
モットー	<p>□ 空港におけるイノベーションアイデアの創出、アイデアの実装</p> <ul style="list-style-type: none"> □ イノベーションに向けたスタートアップのエコシステムの構築
加盟企業	<ul style="list-style-type: none"> □ ローマ空港、AENA（スペイン空港運営企業）、アテネ国際空港、コート・ダジュール空港、ダラス・フォートワース国際空港、バンクーバー国際空港、ミュンヘン空港、ドバイ空港、マスカット国際空港（オマーン）、成田国際空港

A4Iがスタートアップと作り上げたいサービスの内容



(出所) A4I（Airport for Innovation）、コート・ダジュール空港、成田国際空港資料をもとに作成

- ミュンヘン空港は、企業間のコラボレーションに向けた、共同開発、技術試験、技術実装、交流スペース等の環境を整備することで、世界各所のイノベーション志向企業、先端サービス開発企業を誘引し、**世界的なビジネスと研究開発の拠点、新サービスを生み出す拠点となることを目指している。**
- 空港運営事業以外の新たな収益の柱を築くため、世界中の様々な人材が集結する国際空港としての特性を活かし、**空港内に業界横断型のイノベーションセンター「Lab Campus」を整備。**

Lab Campus概要

背景	<ul style="list-style-type: none">□ 空港の新たな収益の柱の確立□ ミュンヘンにおけるイノベーション・エコシステムの構築□ 空港利用者の体験価値の向上
設立	<ul style="list-style-type: none">□ 2018年、設立□ 2023年、正式オープン
モットー	CONNECT、CREATE、COLLABORATE <ul style="list-style-type: none">□ 研究機関、大手企業、新興企業、クリエイター等によるオープンイノベーションの推進
入居テナント	<ul style="list-style-type: none">□ 研究機関：ミュンヘン工科大学□ 大手企業：ドイツ航空管制機関、ルフトハンザ・アビエーション・トレーニング□ 新興企業：amplimind、Exotec

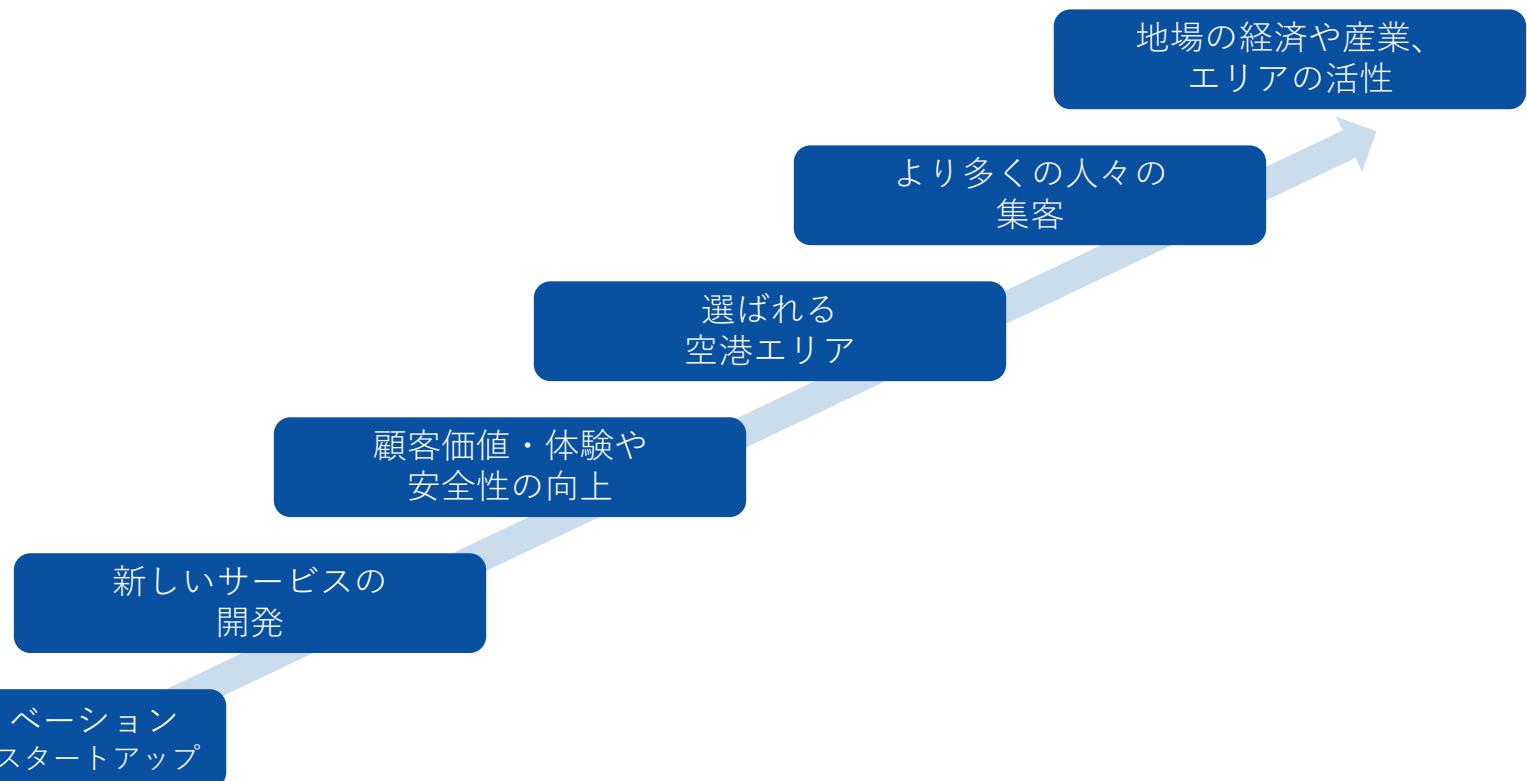
Lab Campus外観パース



(出所) Munich Airport及びLab Campusプレスリリース等をもとに作成

- 世界の空港及びその周辺エリアは、**オープンイノベーションを起点**に、新たなサービス開発に取り組むことで、空港エリアの魅力を高め、一層の集客、地場経済や産業の活性を図る、エリア成長モデルを構築し始めている。
- 空港の吸引力を活かし、**中部国際空港島及び周辺地域でも地場の産業やエリアを盛り上げていく仕組みが必要**になっている。

国内外の空港周辺エリアが行う、オープンイノベーションを通じた新たなエリア成長モデル



Chapter 2

オープンイノベーションの場として
あいちデジタルアイランドには
どのような特徴があるのか ~What~

主な読者

- 全国のテック企業・スタートアップ

Topic

- 様々な産業の集積地
- 実験に適した地理・環境条件
- 多様な人が集まる場
- 将来に向けたポテンシャル

- 中部国際空港島及び周辺地域には、空港関連業、運輸業、商業、宿泊・観光業、製造業をはじめ、様々な産業が集積しているほか、他の空港と比べてもエリア全体として大規模なフィールドを有する。フィールドには、先進的な通信技術など、デジタル技術の可能性を検証できる環境も整う。
- さらに、中部国際空港をハブとして様々な人が集まる環境があるほか、今後ビッグイベントの開催を控えており、**オープンイノベーションを行う上で最適な環境が整っている。**

オープンイノベーションフィールドとしての中部国際空港周辺エリアの特徴や魅力

中部国際空港周辺エリアには オープンイノベーションに最適なフィールドがある

①様々な産業の 集積地



- 中部国際空港をはじめとした**空港関連業、運輸業、国際展示場や商業、宿泊・観光施設**が数多く存在
- 対岸エリアを含めると、常滑焼などの伝統工芸をはじめとした**製造業**が集積
- 事業やエリアの課題は様々あり、共創や技術活用ニーズは高い

②実験に適した 地理・環境条件



- 道幅や歩道幅が広く、起伏が少ないため、**屋内だけでなく大規模な屋外実証**も可能
- 5G通信環境等の**先進的な実験設備**
- 空路に加え、陸路でも優れたアクセス

③多様な人が 集まる場



- 国内外から**観光客やビジネスパーソン**など、多様な属性が集まる（国際線：約322万人、国内線：約596万人）
- エリア内の居住人口は比較的少数で、実証スペースを確保しやすい
- **STATION Ai等で共創した後、実証**することも可

④将来に向けた ポテンシャル



- 2026年に**アジア・アジアパラ競技大会**が予定され、海外からの来訪者の増加が期待
- 中部国際空港では、第二滑走路整備に向けた取組が進んでおり、発着便数や利用者の増加が期待

エリアの特徴・魅力 | ①様々な産業の集積地

- 中部臨空都市を含む本エリアには、空港関連業、運輸業、商業、宿泊・観光業、製造業など、**様々な産業・企業が集積**しており、**企業向けのサービス検証を行う実証実験に適したオープンイノベーション環境**が整っている。

エリアの様子



◆中部臨空都市の様子



(出所) 愛知県「CENTRAL JAPAN AIRPORT CITY 中部臨空都市（2024年5月版）」

- その他、観光資源や宿泊施設も豊富に存在しており、一般消費者向けのサービス検証を行う実証実験に適した環境もある。

あいちデジタルアイランドの主な観光資源

施設名	概要	年間利用者数※
中部国際空港	ターミナルビルには地元店や有名店が集合	9,809,000人
めんたいパークとこなめ	明太子の工場見学施設。めんたいミュージアムと売り場が併設	705,237人
Aichi Sky Expo (愛知県国際展示場)	展示面積約6万m ² という国内4位の広さを有する展示場	602,143人
りんくうビーチ	中部国際空港が望める人工海浜	482,310人
やきもの散歩道	陶磁器会館を出発点とした散歩道。常滑焼が展示	246,641人

※2023年時点

あいちデジタルアイランドに立地する宿泊施設

場所	宿泊施設名	総定員数
空港島	中部国際空港セントレアホテル	616人
	コンフォートホテル中部国際空港	707人
	東横INN中部国際空港Ⅰ	1,430人
	東横INN中部国際空港Ⅱ	2,572人
	フォーポンイントバイシェラトン名古屋中部国際空港	638人
対岸部	Jホテルりんくう・JホテルANNEX	225人
常滑駅周辺	スプリングサニーホテル名古屋常滑駅前	386人
	ホテルルートイン常滑駅前	168人
	ホテルルートイン常滑駅前 Grand Annex	137人

(出所) 愛知県およびとこなめ観光協会資料をもとに作成

- 中部国際空港島及び周辺地域の企業は、企業視点、顧客視点、エリア視点から様々な課題を抱えている。個社のみでは解決できず、**多様なステークホルダーが共創**してはじめて解決できる課題も数多く、**テック企業との共創も求められている。**

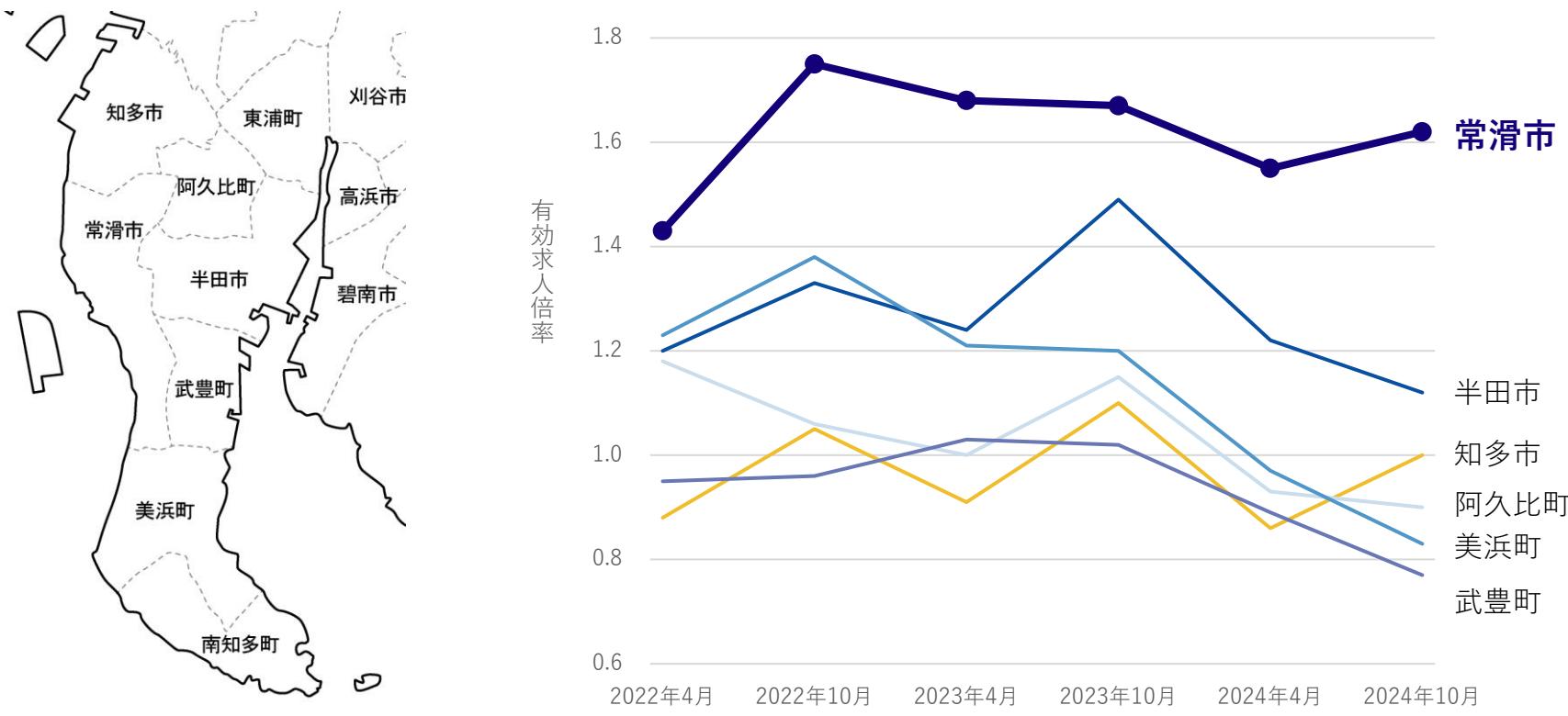
中部国際空港周辺エリアに所在する関係者の主な声

企業視点	顧客視点	エリア視点
<p>人材不足</p> <p>常滑焼の担い手は減少している。人材育成しても、他の焼き物地域に流出したり、焼き物から手を放すケースもあり、窯業の継承が難しくなっている。</p>	<p>販路開拓</p> <p>常滑焼は海外の方にも人気だが、窯業は小規模事業者が多く、新規の受注に対応が難しいなど、販路拡大時に苦労している。</p>	<p>エリア魅力</p> <p>観光客が、空港から知多半島へと訪れる機会や動機が十分でなく、また国内外へのPRも工夫の余地がある。</p>
<p>事業不安定</p> <p>特に中小企業や商業施設では、アルバイトやパートの方が集まりづらく、通常の接客等の業務にも支障が出ている。</p>	<p>付加価値向上</p> <p>接客などの顧客体験価値の向上は自動化ではなく、人が担当すべきところもあり、人材不足の解決とバランスを取りながら取り組むことが難しい。</p>	<p>エリア周遊</p> <p>夜間に利用できる飲食店や娯楽施設が少なく、周遊しづらい。交通が混雑する場面もあり、集客可能な人数に制約がある。</p>
<p>業務効率化</p> <p>自動化に投資しても、思うように進まない場合もある。業務効率化に向けては、自社業務でどこまでを自動化するか、アナログで対応するか整理が必要。</p>	<p>新たな挑戦</p> <p>先行きが不透明な中、投資体力が厳しい企業は、新規事業開発へのチャレンジや自動化など、顧客に求められていても新たな挑戦がしづらい。</p>	<p>エリア集客</p> <p>土日は人が集まるが、平日は集客に苦労している。観光客含め、一過性でなく継続的に集客できる仕組みづくりが目下の課題。</p>

(出所) 中部国際空港周辺エリアに所在する関係者へのヒアリングをもとに作成

- 中部国際空港島及び周辺地域は近隣の都市に比べて有効求人倍率が著しく高い。求職者数に比べて求人数が多い状況、つまり、人材を確保しづらい状況にある。限られた人材で目の前の事業に対応しなければならない結果、販路開拓や付加価値向上といった、**将来を見据えた対応が手薄くなっているとの企業の声が多い。**
- このように**人材不足はエリアの共通課題**となっており、**人材不足に対応するソリューションが求められている。**

常滑市及び隣接する5市町における有効求人倍率の推移



(出所) 厚生労働省愛知労働局ハローワーク半田資料をもとに作成

- 愛知県、常滑市及び大手通信事業者5社は、中部国際空港島及び周辺地域における5G提供エリアの拡大に向けた協定を締結。5G提供エリアの拡大や、5Gを活用した先端サービスの社会実装の実現に向け、早期から取り組んできた。
- 中部国際空港やイオンモール常滑、中部国際空港貨物地区を中心に、**中部国際空港島及び周辺地域では5G通信環境が順次整備されており、高速大容量、低遅延、同時多接続といった5Gの特徴を活かしたサービスの実証実験が行える環境が整っている。**

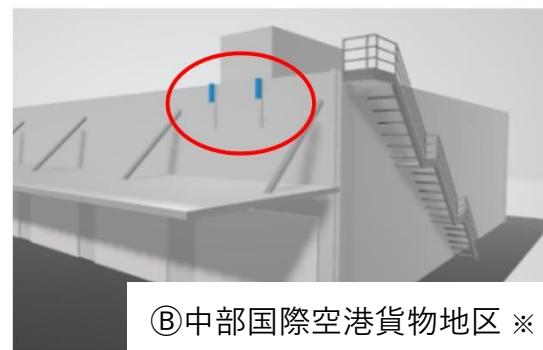
5G共用アンテナ設置例



Ⓐ 中部国際空港中央部



Ⓒ イオンモール常滑屋上



Ⓑ 中部国際空港貨物地区 ※

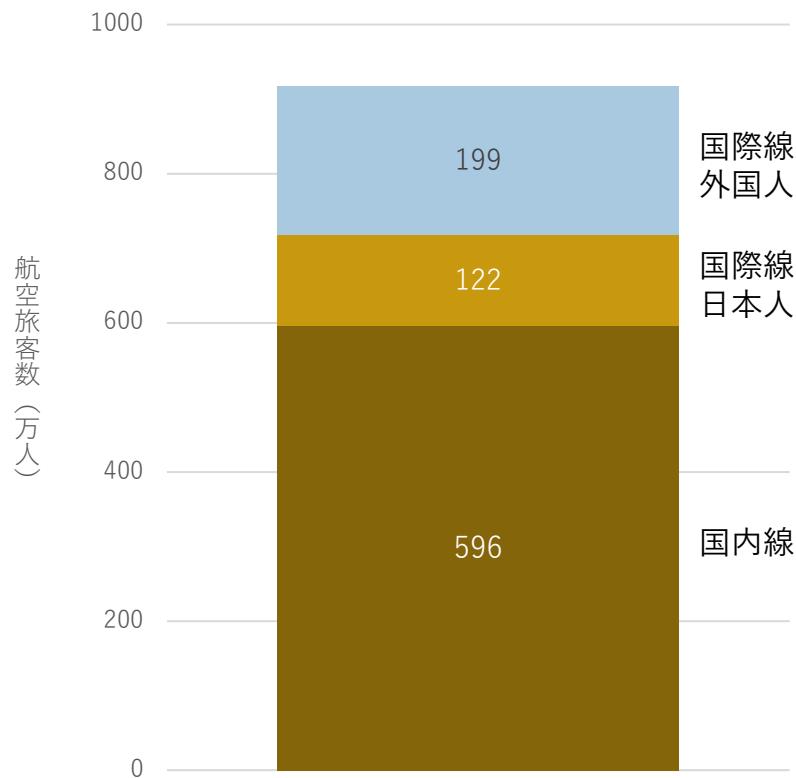
※ 今後整備予定

(出所) 愛知県資料

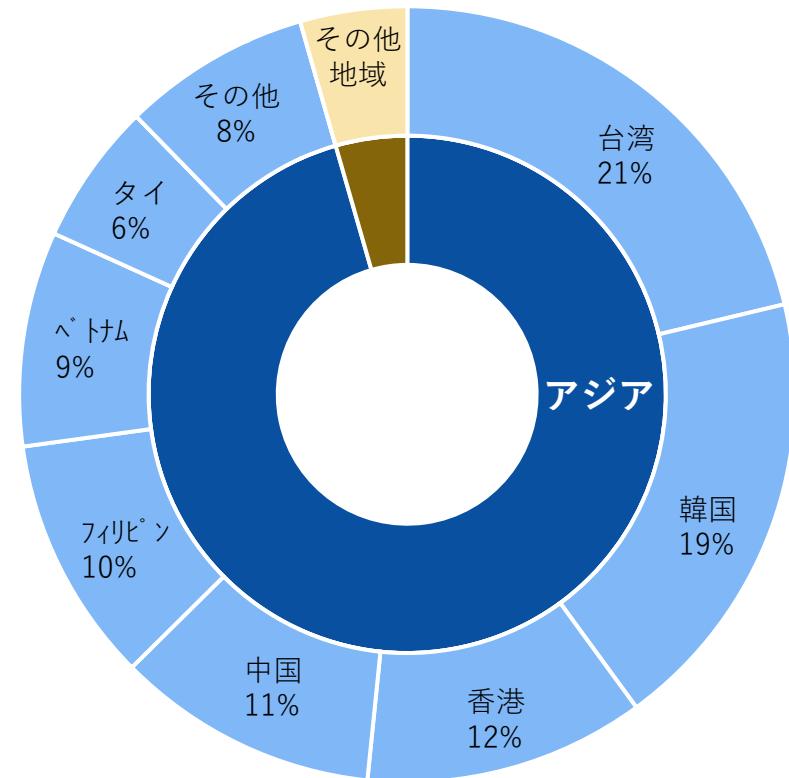
エリアの特徴・魅力 | ③多様な人が集まる場

- 中部国際空港には、観光客やビジネスパーソンなど、国内外から多様な属性が集まる中で、様々な属性の消費者向けサービスの検証を行う最適な環境が整っている。
- 特に外国人については大多数がアジア人である（2023年入国ベース）。

中部国際空港航空旅客数（2023年度）



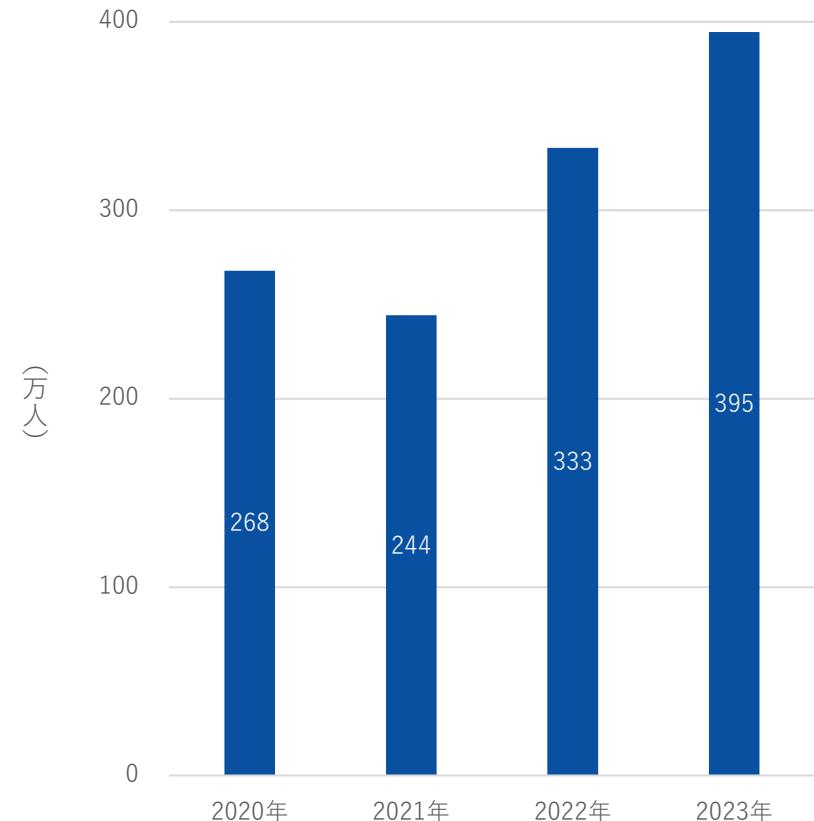
中部国際空港外国人入国外国人内訳（2023年）



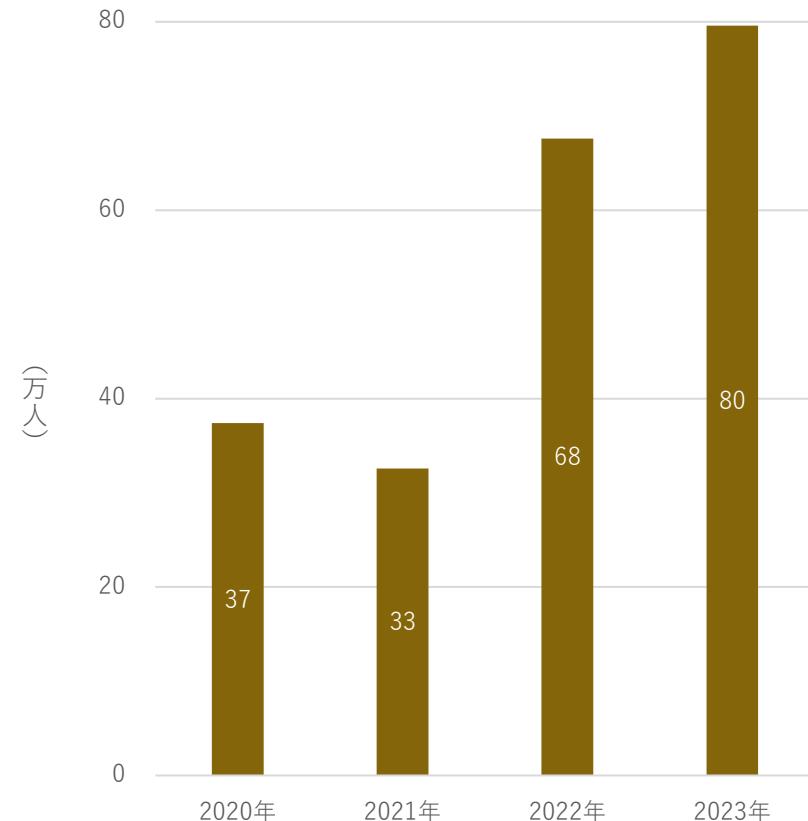
（出所）中部国際空港「利用実績」、法務省「出入国管理統計」をもとに作成

- また、中部国際空港島及び周辺地域が位置する常滑市の観光客は増加しており、観光や周遊向けのサービスの検証を行う環境がエリア全体として整っている。

常滑市観光入込客数



常滑市宿泊者数



(出所) 常滑市資料をもとに作成

- 2024年10月に名古屋市内で開業した、**日本最大級のオープンイノベーション拠点である「STATION Ai」**では、700社を超える国内外のスタートアップ企業やパートナー企業、支援機関や大学等が新規事業創出を行っている。
- 例えば、他社との共創を通じてSTATION Aiで練った新規事業アイデアを、**あいちデジタルアイランドで実証実験を重ねながら、事業アイデアの検証や、プロダクト開発スピードの加速へと繋げることもできる。**

STATION Ai及びあいちデジタルアイランドを活用した、事業アイデアづくりの流れ

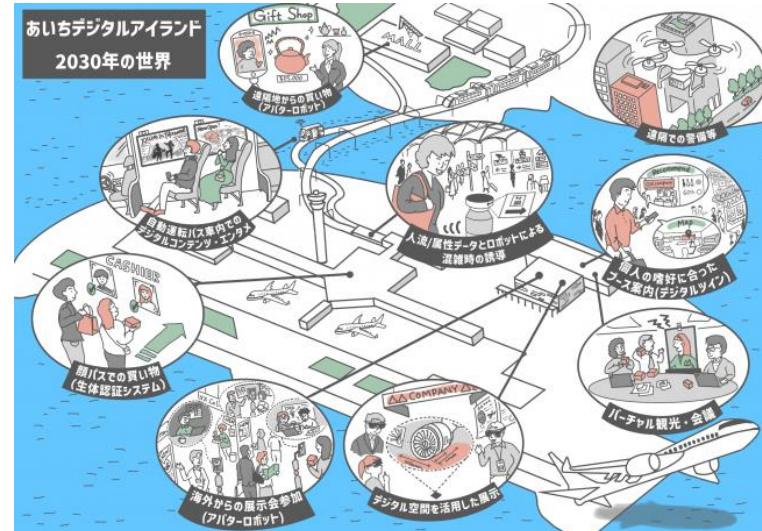
PoV (Proof of Value)
顧客視点での価値検証

PoC (Proof of Concept)
デジタル視点での実現性検証

PoB (Proof of Business)
ビジネス視点での事業有効性検証



STATION Ai



あいちデジタルアイランド

(出所) 愛知県及びSTATION Ai資料をもとに作成

- 2026年には、愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会が開催。スポーツを通じて様々な属性の人々が中部国際空港島及び周辺地域のほか、愛知県内を周遊・観光し、更なる地域活性の契機に。
- このイベントをチャンスと捉え、自社PRに繋げたり、オープニングノベーションを通じた新たなサービスのお披露目の場とすることで、**更なる事業成長にも繋がるポテンシャル**がある。

アジア競技大会概要

日程	2026年9月19日～10月4日
特徴	<ul style="list-style-type: none"> □ オリンピック競技に加え、アジアならではの競技を開催。オリンピックやパラリンピックより競技数が多い。 □ 参加する各国・地域の選手団は約1.5万人。 1か月弱で、数百万人規模の観光客が訪れるポテンシャル有。 <p>(過去アジア競技大会観客数)</p> <p>2014年：152万人（仁川） 2018年：210万人（ジャカルタ） 2022年：305万人（杭州）</p>
会場	<ul style="list-style-type: none"> □ Aichi Sky Expoを含む 愛知県内40会場以上 □ 選手や観光客による セントレア利用の増加、 会場でのPRを通じた自社 ・エリアブランド形成の チャンス 
経済効果	<ul style="list-style-type: none"> □ 経済効果全体：1,625億円 □ 観客・選手等消費支出：266億円



20th Asian Games
Aichi-Nagoya 2026



5th Asian Para Games
Aichi-Nagoya 2026



(出所) 愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会組織委員会資料、愛知県、JETRO資料

Chapter 3

あいちデジタルアイランドプロジェクトで どのようなことができるのか ～How～

主な読者

- エリア内の企業
- 全国のテック企業・スタートアップ

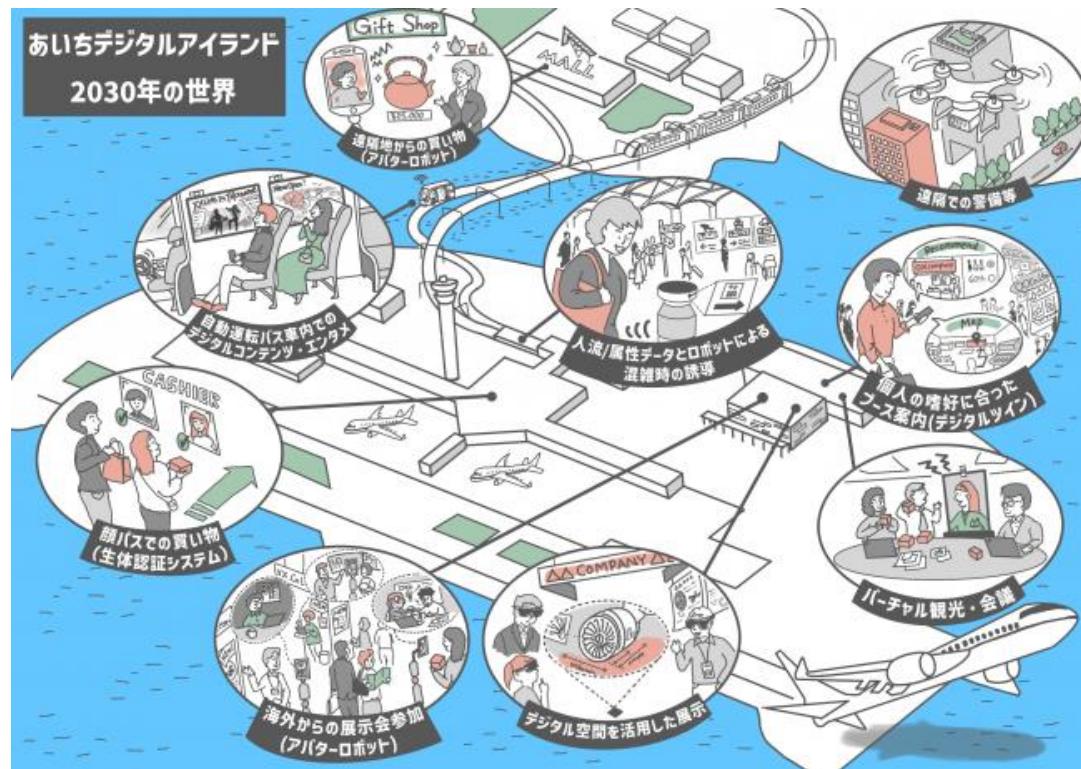
Topic

- プロジェクトの全体像
- プロジェクトの詳細

- 愛知県では、中部国際空港島及び周辺地域の強みを武器に、同フィールドを、オープンイノベーションに最適な「あいちデジタルアイランド」としてプランディング。
- あいちデジタルアイランドプロジェクトでは、2030年に普及が見込まれる近未来の事業やサービスを先行的に実用化することを目指し、**オープンイノベーションを通じた実証実験や伴走支援、エリア内企業とテック企業・スタートアップのマッチング等の支援が受けられる。**

あいちデジタルアイランドプロジェクト・イメージ

※イメージ図であり、プロジェクトで取り扱う技術やサービスは下図に限定するものではない



- これまで、エリア内の企業と、国内外のテック企業・スタートアップとのオープンイノベーションを通じ、**最先端のデジタル技術を活用した実証実験を実施し、エリア内における最先端のサービスの社会実装を推進**してきた。

あいちデジタルアイランドプロジェクトによる実証実験の例

人材不足



AI移動ロボット

@中部国際空港

天候や気温問わず24時間体制で警備を行う必要があり、負担の大きい空港の警備業務の負担軽減、人手不足解消に向け、AI搭載移動ロボットを実証



付加価値向上



アバター

@ Aichi Sky Expo

距離や時間の都合で展示会に参加が難しい方にも自宅等から来場できるように、遠隔見学を実現するアバターを実証



付加価値向上



顔認証システム

@常滑市りんくうビーチ

マリンスポーツなど、財布やスマートフォンの携行に手間のある場面で、ハンズフリーで買い物できるか、顔認証システムで実証



(出所) 愛知県公表資料をもとに作成

■ (前頁より続く)

あいちデジタルアイランドプロジェクトによる実証実験の例

エリア周遊



デジタルコンテンツバス

@常滑駅、中部国際空港

顧客満足につながる行動変容を促すため、乗客の属性に応じ、車内で情報提供を行うデジタルコンテンツバスを試験走行



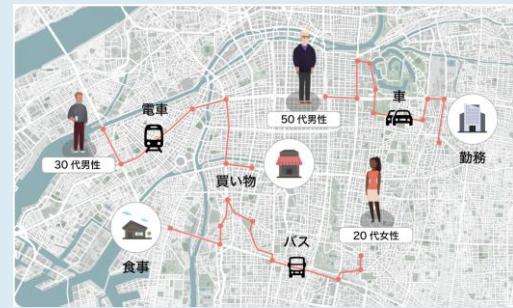
エリア周遊



人流データ

@常滑市内（空港島、常滑市街地）

国内外からエリアに訪れる人に対し、人流データを活用し、必要な情報を必要な時に提供し行動の変容を促す実証実験を実施



業務効率化



生体認証システム

@エリア内観光施設、企業現場

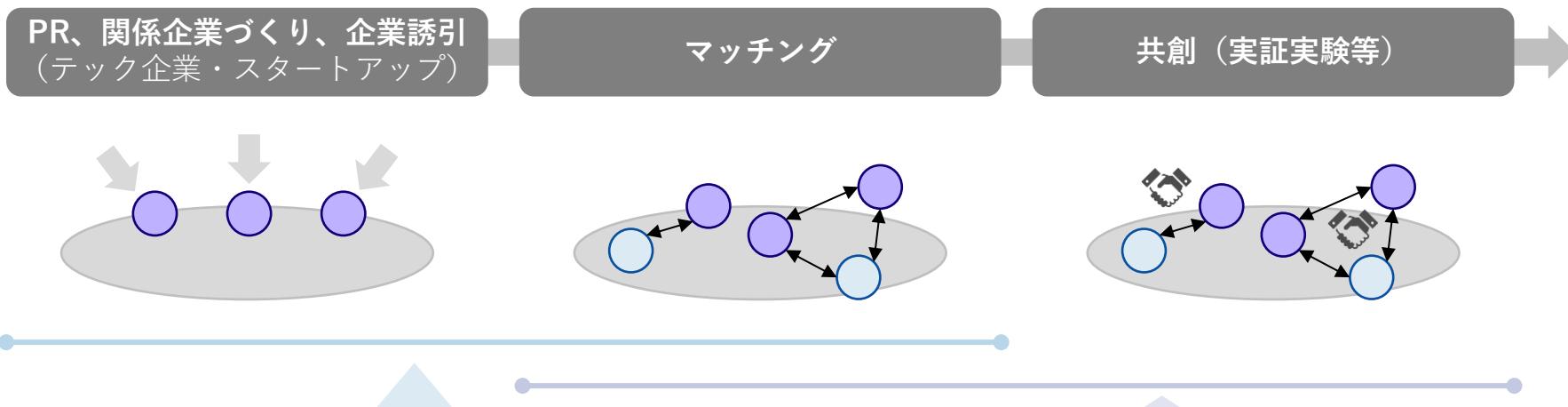
国内外からエリアを訪れる人や、エリアに居住する人に、複数の施設のやサービスを一つの生体情報でつなぐ実証実験を実施（入退館記録、支払いなど）



(出所) 愛知県資料をもとに作成

- あいちデジタルアイランドプロジェクトでは、エリア内企業や全国のテック企業・スタートアップの誘引、マッチング、実証実験といった、**オープンイノベーションに関する一連の活動の支援が受けられる。**
- 次頁以降では、下図の①②の詳細をご説明。

あいちデジタルアイランドプロジェクトの支援範囲（オープンイノベーションに関する一連の活動を支援）



①ワンストップ窓口

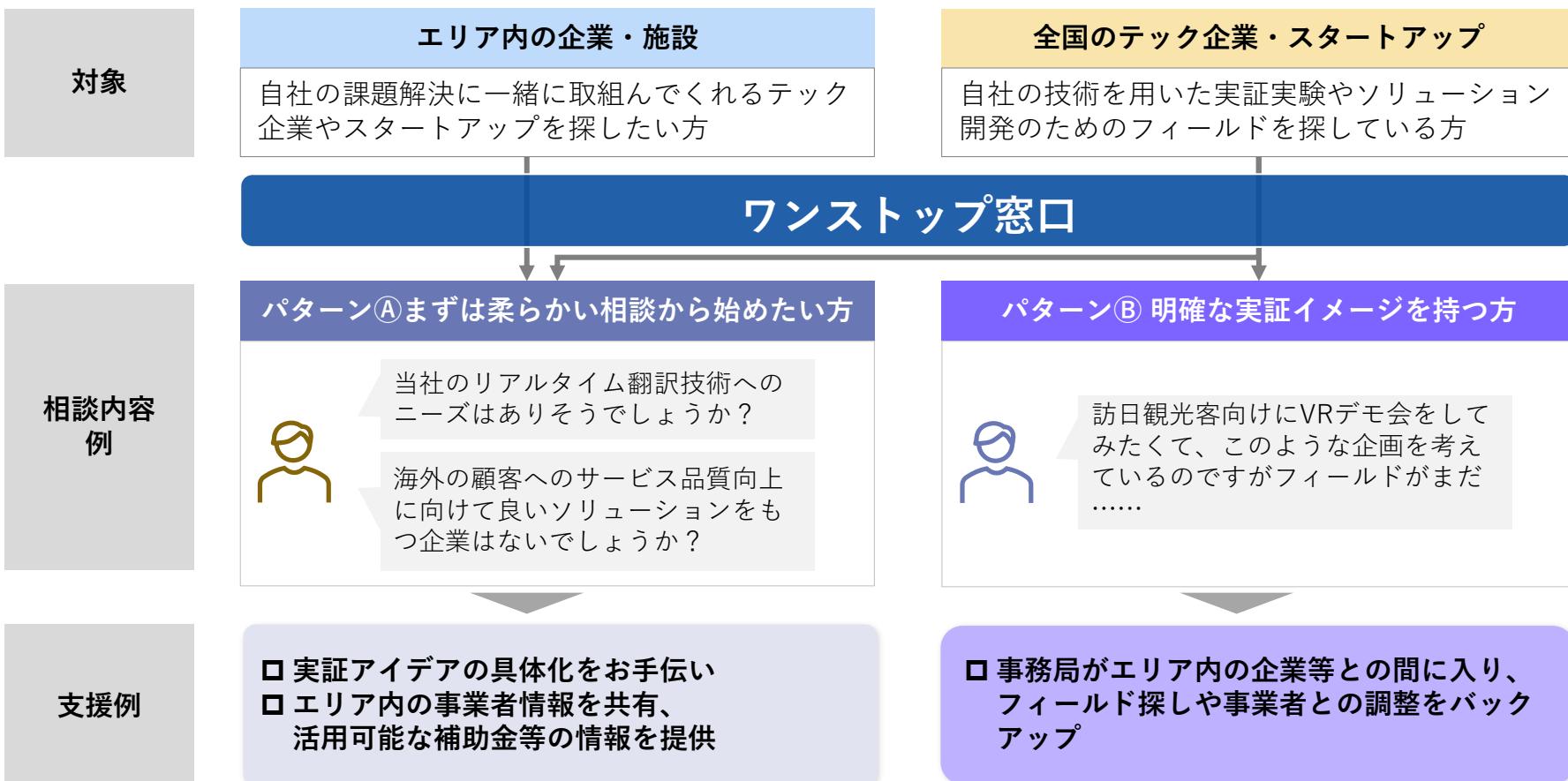
- 課題の解決策を模索するエリア内企業・施設、実証フィールドを探す全国のテック企業・スタートアップのマッチングや橋渡しを支援
- 具体的なマッチングや実証イメージが明確な相談も、柔らかい相談も受付

②TECH MEETS

- 中部国際空港島及び周辺地域に立地する企業・施設等と、先進的なデジタル技術を持つ全国のテック企業・スタートアップ等が手を携え、近未来の事業やサービスの早期実現を目指した開発や実証実験を支援

- マッチングを望むエリア内企業・施設や、全国のテック企業・スタートアップの相談を受け付ける「ワンストップ窓口」では、柔らかい話から、マッチング先や実証イメージが明確な話まで、幅広い相談を行える。
- 相談の後、パターンⒶでは実証アイデアの具体化や情報提供、パターンⒷではマッチング候補先との間に事務局が入り、マッチング候補先のニーズの確認や実証実験に向けた関係者調整等の支援が受けられる。

ワンストップ窓口概要



- ワンストップ窓口のパターンBでは、2024年度、4社のテック企業・スタートアップが支援を受けている。
- 例えば、構想しているソリューションアイデアのブラッシュアップに向けたアドバイス、エリア内企業のニーズ探索や実証フィールドの探索、打合せの調整、関係者との引き合わせといった支援が受けられる。

ワンストップ窓口による支援例

What a noble company

- 起業を目指す名古屋工業大学の学生らによるプロジェクト
- 当社は、お土産の買い控えという機会損失を解消するソリューションを開発中

相談内容

- 構想しているソリューションアイデアの磨き上げを行いたい
- ソリューションアイデアを検証するための実証フィールドを探したい

支援内容

- 当社ソリューションをエリア内企業に紹介、**エリア内企業のニーズを確認**
- 当社に**ニーズが高いエリア内企業を紹介**
- ソリューションアイデアのブラッシュアップに向けた、事務局及びエリア内企業から**定期的なアドバイス**
- 実証実験に向けた**エリア内企業との打合せを調整、引き合わせ**

株式会社DAOWORKS



- IoTやブロックチェーン、メタバース等の技術を活用したサービスを企画・開発するスタートアップ
- 当社は、ドローンを活用した港湾施設の点検・維持管理の効率化ソリューションを開発中

相談内容

- ソリューションアイデアを検証するための**実証フィールドを探したい**
- 実証実験に向け、調整が必要となる港湾施設に関連する**関係者を整理したい**

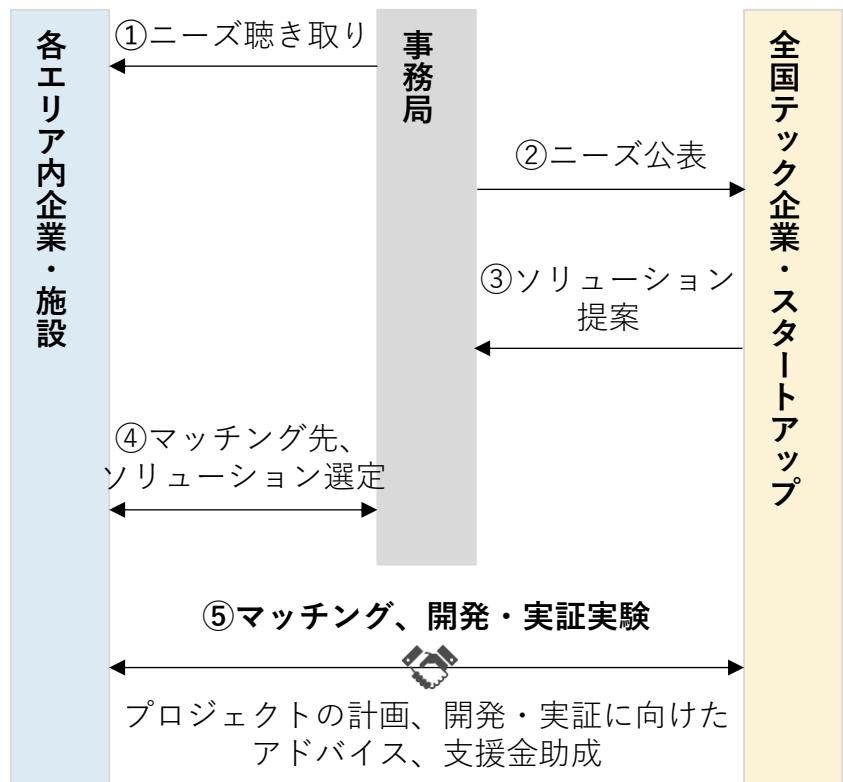
支援内容

- 当社ソリューションをエリア内の港湾施設関係者に紹介、**エリア内関係者のニーズを確認**
- **関係者との打合せの調整、打合せに向けた資料作成や説明方法をアドバイス**
- 実証実験に向け、調整が必要となる港湾施設**関係者を洗い出し**

- 「TECH MEETS」では、課題やニーズをもつ各エリア内企業・施設と、その課題を解決しうるサービスを持つ全国のテック企業・スタートアップをマッチングし、事務局や外部メンターによるアドバイスや、**最大400万円の支援金のもとでサービス開発や実証実験を行うことができる。**



TECH MEETSのスキーム

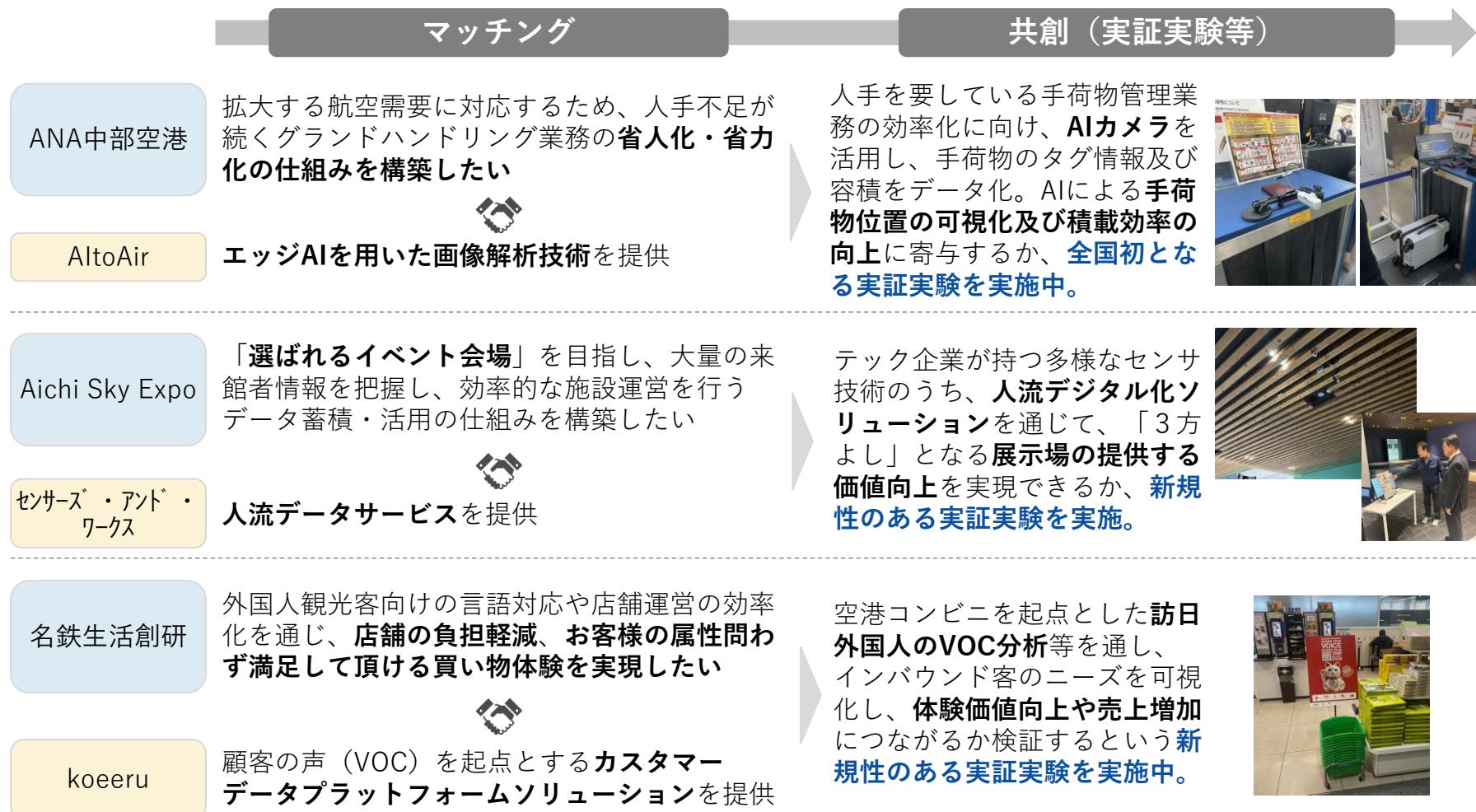


TECH MEETSによる2024年度のマッチング状況

Aichi Sky Expo		センサー・アンド・ワープラ
イオンモール常滑/イオン銀行		DXYZ
ANA中部空港		AltoAir
常滑市		ファーストローンチ
常滑市民病院		Eyes,Japan
中部国際空港セントレアホテル		iPresence
中部国際空港		富士通Japan
名鉄生活創研		koeeru
矢場とん		地元カンパニー
矢場とん		ファーストローンチ

- TECH MEETSでは、お困りごとと、お困りごとの解決に寄与するデジタル技術とのマッチングを通して、**社会実装を見据えた新規性の高い実証実験を行っている。**

TECH MEETSのプロジェクト例



- あいちデジタルアイランドプロジェクトのPRのほか、**オープンイノベーションの先進的な他事例を有識者から学べるフォーラム**を定期的に開催している。また、オープンイノベーションに関心を持つ**エリア内企業やテック企業**とのネットワークづくりを行うこともできる。

フォーラム概要（2024年度）

開催概要

- 9月6日：あいちTakeoffフォーラム
—セントレアからイノベーションを—
- 12月20日：あいちFlyingフォーラム
—セントレアから羽ばたくイノベーション—
- 2月3日：あいちTurningフォーラム
—セントレア発イノベーションが創る転換点—

参加 メリット

- どのようにオープンイノベーションを行うべきか、有識者の講演からヒントが得られる
- オープンイノベーションに関心を持つ**エリア内企業やテック企業**と出会える
- あいちデジタルアイランドプロジェクトでどのような支援を受けられるか理解できる

会場の 様子



有識者の講演を通して得られる学び

■ オープンイノベーションを試せる場を知れる

オープンイノベーションを通じて得られたアイデアを試す場として、2026年に開催される**愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会**のポテンシャルを学べる。

■ オープンイノベーションの成功ポイントを学ぶ

愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会等のビッグイベントや、企業の事業成長において、**オープンイノベーション**を通じて生まれる効果や成功のポイントを学ぶ。

■ オープンイノベーションをどう生み出すか学ぶ

公開されている知財情報から生成AI技術によりオープンイノベーションのアイデアを生む方法や、STATION Aiという場において**共創環境**の中でアイデアをどう育めるか学ぶ。

■ オープンイノベーションの現場の実情を学ぶ

あいちデジタルアイランドプロジェクトに参加している企業の実例をもとに、**現場視点でのオープンイノベーション**による効果、留意点、苦労話等を学ぶ。

Chapter 4

あいちデジタルアイランドプロジェクトは この先、何を目指し、何を行うのか ～Future～

主な読者

- エリア内の企業
- 全国のテック企業・スタートアップ

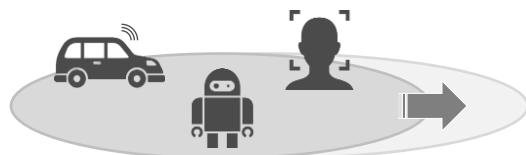
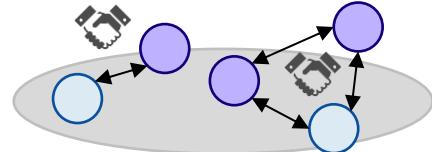
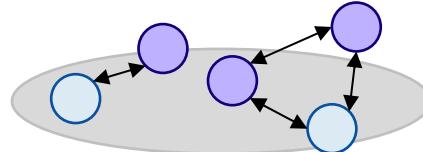
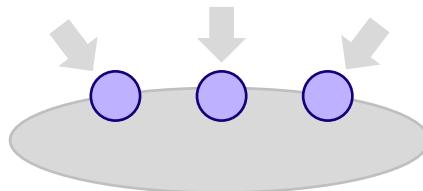
Topic

- あいちデジタルアイランドプロジェクトが目指す姿
- 目指す姿に向け、今後、皆様と行っていきたいこと
- 目指す姿に向け、共創に必要なマインド
- あいちデジタルアイランドプロジェクトの今後の取組予定

- 引き続き、中部国際空港周辺エリアならではの強みを活かし、オープンイノベーションによる技術実証等を通じた新しいサービスづくりを加速することで、**企業やエリアの課題を解決し、産業振興やQoL向上に寄与していく未来を目指している。**

あいちデジタルアイランドプロジェクトが目指す姿

※上段：あいちデジタルアイランドプロジェクトの支援内容



※下段：あいちデジタルアイランドプロジェクトを通じて目指す姿

- 今後、企業やエリアが抱えている課題の解決に向けては、あいちデジタルアイランドプロジェクトを通して様々なデジタル技術を実証実験しながら、皆様とともに課題解決を図っていきたい。

デジタル技術を活用した課題解決の方法例（先述した中部国際空港周辺エリアに所在する関係者の主な声（課題）をもとに作成）

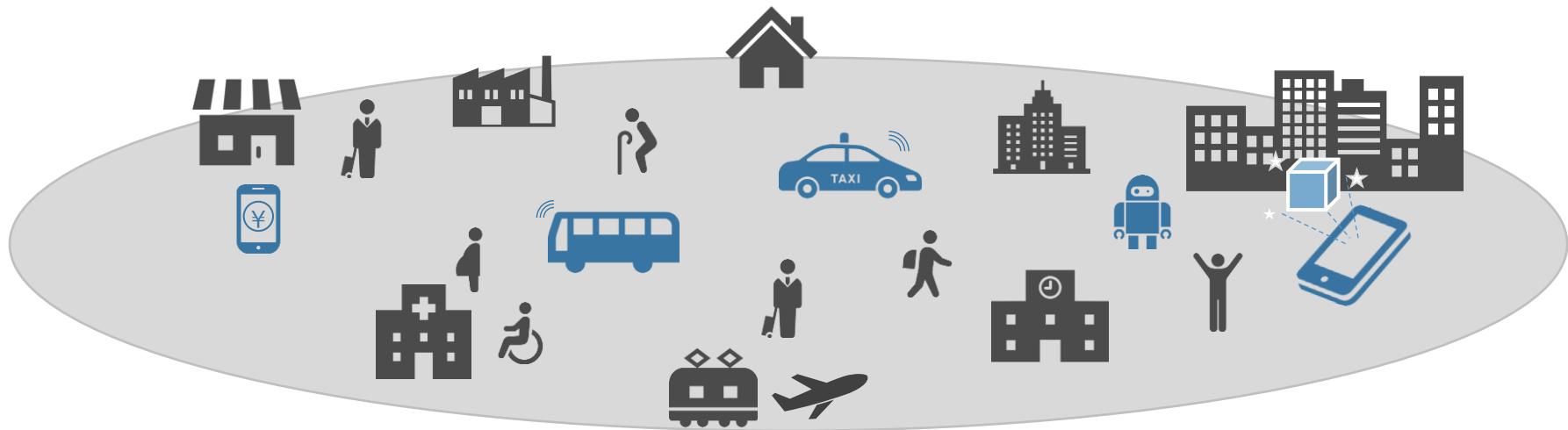
※あくまで例であり、プロジェクトで取り扱う技術やサービスは下図に限定するものではない

企業視点	顧客視点	エリア視点
人材不足  ロボット 製造や物流現場において、人間の代わりにライン作業や検品等を行い省人化	販路開拓  ブロックチェーン アートや工芸品をNFT（非代替性トークン）として販売することで、認知度を向上させ収益を拡大	エリア魅力  メタバース 仮想観光等、旅行者に対して新たな観光体験を提供することでエリアの魅力を向上
事業不安定  機械学習 過去の販売実績データ等を活用して需要予測や観光動態予測を実施	付加価値向上  生体認証 顔や声、指紋等を用いた生体認証に決済等の各種サービスを紐づけることで、顧客の利便性を向上	エリア周遊  自動運転 人手を必要としないエリア内の移動方法を確立することで周遊性を改善
業務効率化  IoTセンサ センサ情報を活用することで、遠隔環境から業務現場の状況を把握	新たな挑戦  生成AI プログラミングコードを生成し、簡易的なツール・システムの開発にチャレンジ	エリア集客  デジタルマーケ SNSや位置情報等を活用することで、より効果的なターゲット層へのプロモーションを実現

- また、中部国際空港島及び周辺地域の共創を加速し、エリア全体としてオープンイノベーションの輪を広げ、ワクワクする未来を作りたい。

デジタル技術を活用した未来づくりの例

※あくまで例であり、プロジェクトで取り扱うテーマや技術、サービスは下図に限定するものではない



自動運転コミュニティバスやタクシー等による
エリア内の円滑な移動、免許返納者の移動の足、
病院や通勤・通学の足、観光の足の確保

ARやメタバース、ロボット、キャッシュレス等による
商業や観光、生活向け施設内におけるお客様の体験価
値の向上、エンタメ等の新しい魅力の発見

- 共創を通して企業やエリアの課題を解決したり、ワクワクする未来を形作るために、**エリア内の企業・施設、全国のテック企業・スタートアップの双方が主体的なマインドを持つ必要がある。**

共創時に必要なマインド（エリア内企業・施設）

共創の狙いを明確にする	実証実験など、テック企業やスタートアップと共に創した結果、どんな学びが得られたのか、次のアクションに繋げられたかが重要。そのため、共創を通じ、 何を検証したいのか、何を成し遂げたいのか、事前に整理して共創に臨むマインド が必要
解決したい課題を突き止める	真に課題を解決したいという気持ちがないと、実証実験の成果やその後の社会実装につながりにくい。困りごとや悩みの解像度を高めたり、関係者と会話しながらどんな困りごとや悩みがあるか分析するなど、 課題を掘り下げ、発掘し、自分ごととして共創に臨むマインド が必要
協力者との関係性を築く	実証実験時には、実証フィールドで働いている 現場の方や利用者などの関係者、そしてテック企業・スタートアップの協力 が欠かせない。関係者に 実証実験の目的や依頼事項を密に共有し、対等な関係性を築くマインド が必要

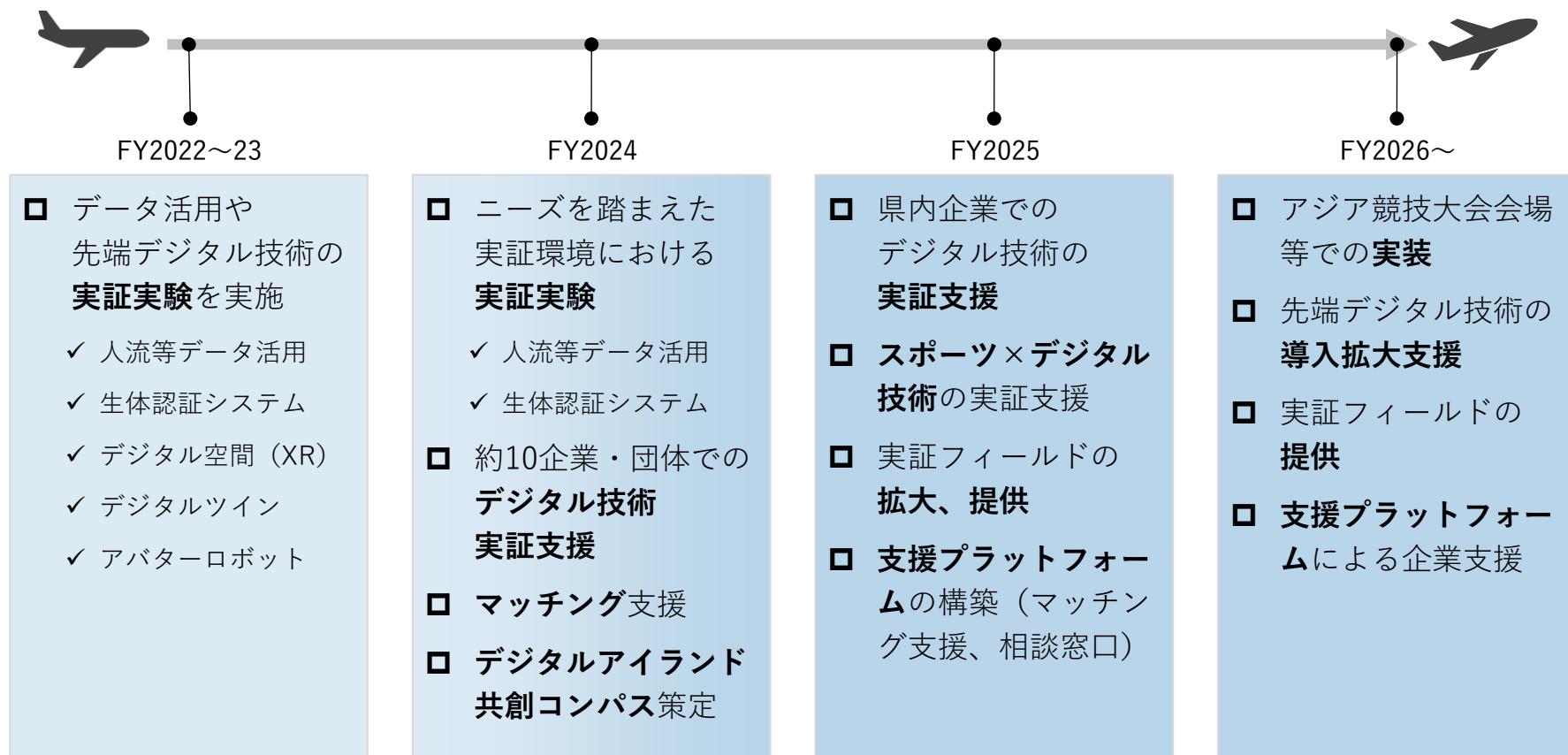
共創時に必要なマインド（全国テック企業・スタートアップ）

何を望んでいるのか深く知る	エリア内企業・施設の中には 初めて実証実験に挑戦する者 もいる。悩みや不安の解消のほか、エリア内企業・施設の現時点の課題や成し遂げたいことや、将来を見据えた事業成長モデルやビジョン等の共通認識をとるなど、 意思疎通を密に図りながらニーズを把握するマインド が必要
技術ではなくサービスや価値を伝える	エリア内企業・施設の中には、 デジタル技術に精通していない者 もいる。手段である技術ではなく、技術を使用して何ができるようになるのか、 サービスや価値を伝えるマインド が必要
実証フィールドとなる現場を知る	エリア内企業・施設で業務を行う現場の方の協力が実証実験に欠かせない。既存の現場のオペレーションから大きな変更が伴うと、混乱を生じるケースも多い。既存のオペレーションを精緻に把握したり、既存のオペレーションへの影響が少ない手法を検討するなど、 現場に寄り添って実証実験を進めるマインド が必要

(出所) 中部国際空港周辺エリアに所在する関係者へのヒアリングをもとに作成

- 愛知県では引き続きあいちデジタルアイランドプロジェクトを通し、**オープンイノベーションを推進し、エリアの未来づくりを支援する。新しい未来を、皆様とともに作り上げていきたい。**

これまでと今後の取組





経済産業局産業部
産業振興課
TEL : 052-954-7495

ともに挑む。ともに実る。



みずほリサーチ&テクノロジーズ

デジタルコンサルティング部
E-mail : aichi-di-matching@mizuho-rt.co.jp